

## 2026年度 専修大学 高校教員対象 研修プログラム

実施期間：2026年7月28日（火）、7月29日（水）

実施方法：専修大学生田キャンパス 9号館

主 催 専 修 大 学

後 援 文 部 科 学 省  
神奈川県教育委員会

## <2026年度 専修大学「高校教員対象 研修プログラム」ご案内>

★主催：専修大学

★後援：文部科学省、神奈川県教育委員会

★実施期間：2026年7月28日（火）、7月29日（水）  
10:00 開講式

★実施会場：専修大学生田キャンパス 9号館

●小田急線 向ヶ丘遊園駅 下車（新宿から急行で約20分）

【バス】北口より「専修大学9号館」、「専修大学前」、「あざみ野駅」または「聖マリアンナ医科大学」行きバスで約10分

【徒歩】南口より14～20分（次頁をご参照ください）

●東急田園都市線・横浜市営地下鉄 あざみ野駅 下車

【バス】「向ヶ丘遊園駅」行きバスで約35分

★定員及びお問い合わせ先 ※(a)を@に変更してください。

教科	日時	定員	お問い合わせ先
倫理	7月28日（火）	40名	金子 洋之 hkaneko(a)isc.senshu-u.ac.jp
国語	7月28日（火）	30名	山口 政幸 yamachi(a)isc.senshu-u.ac.jp
日本史	7月28日（火）	50名	歴史学科 inforekishigaku(a)gmail.com
世界史	7月29日（水）	50名	
英語	7月29日（水）	30名	上村 妙子 taekok(a)isc.senshu-u.ac.jp
地理	7月29日（水）	20名	荻谷 愛彦 kariya(a)isc.senshu-u.ac.jp

※お問い合わせは、上記のEメールのみとさせていただきます。

※電話・FAX等でのお問い合わせはご遠慮ください。

### ★申込方法

専修大学ホームページより申込フォームに必要事項を入力し、「送信」をクリックすることで申込手続きが完了となります。

2026年度高校教員対象研修プログラムHP

<https://www.senshu-u.ac.jp/event/nid00028036.html>

★申込締切：7月3日（金） 10:00まで

※応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。当選された方には受講方法に関する詳細を申込時にご登録いただいたメールアドレス宛にご案内いたします。（7月10日（金）予定）

※なお、抽選にもれた方へも同日中にメールにてお知らせ致します。

### ★参加費：無料

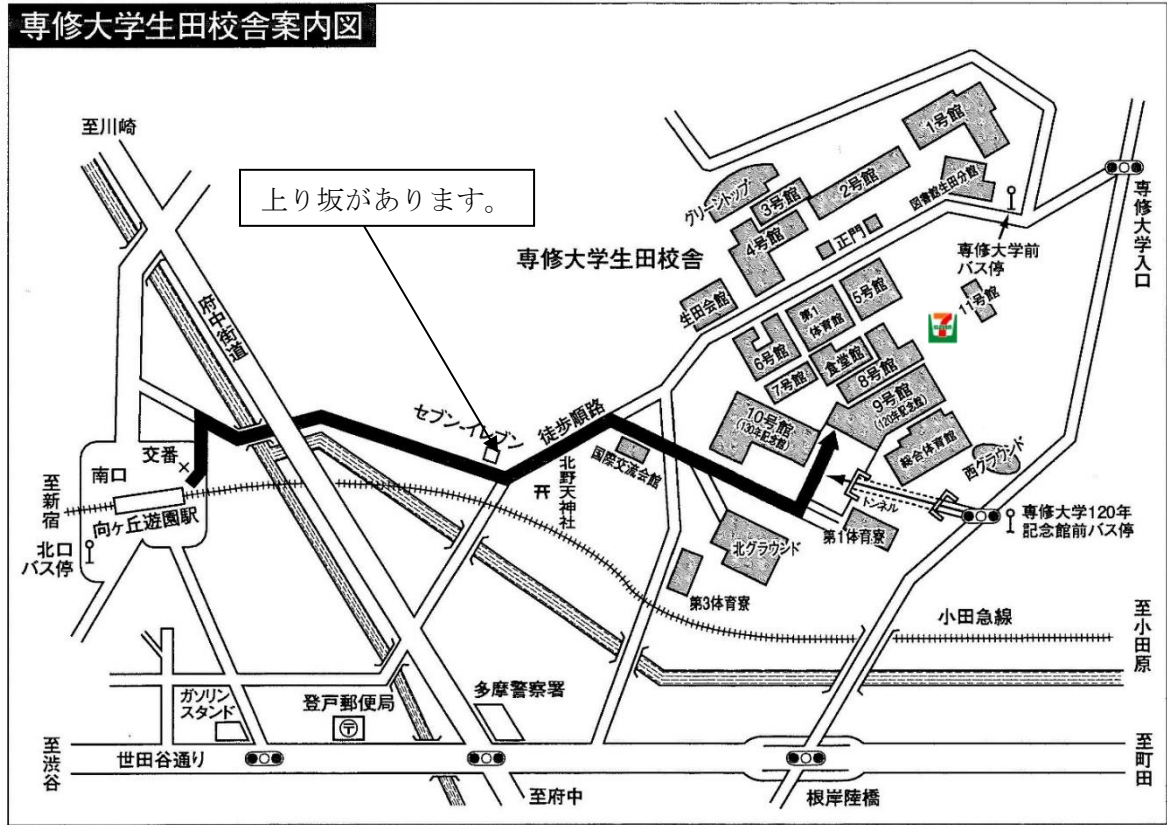
1. 会場には駐車場がございませんので来場の際は公共交通機関をご利用ください。
2. 本学では宿泊施設のご案内は行っておりません。

2026年度高校教員対象  
研修プログラムHP



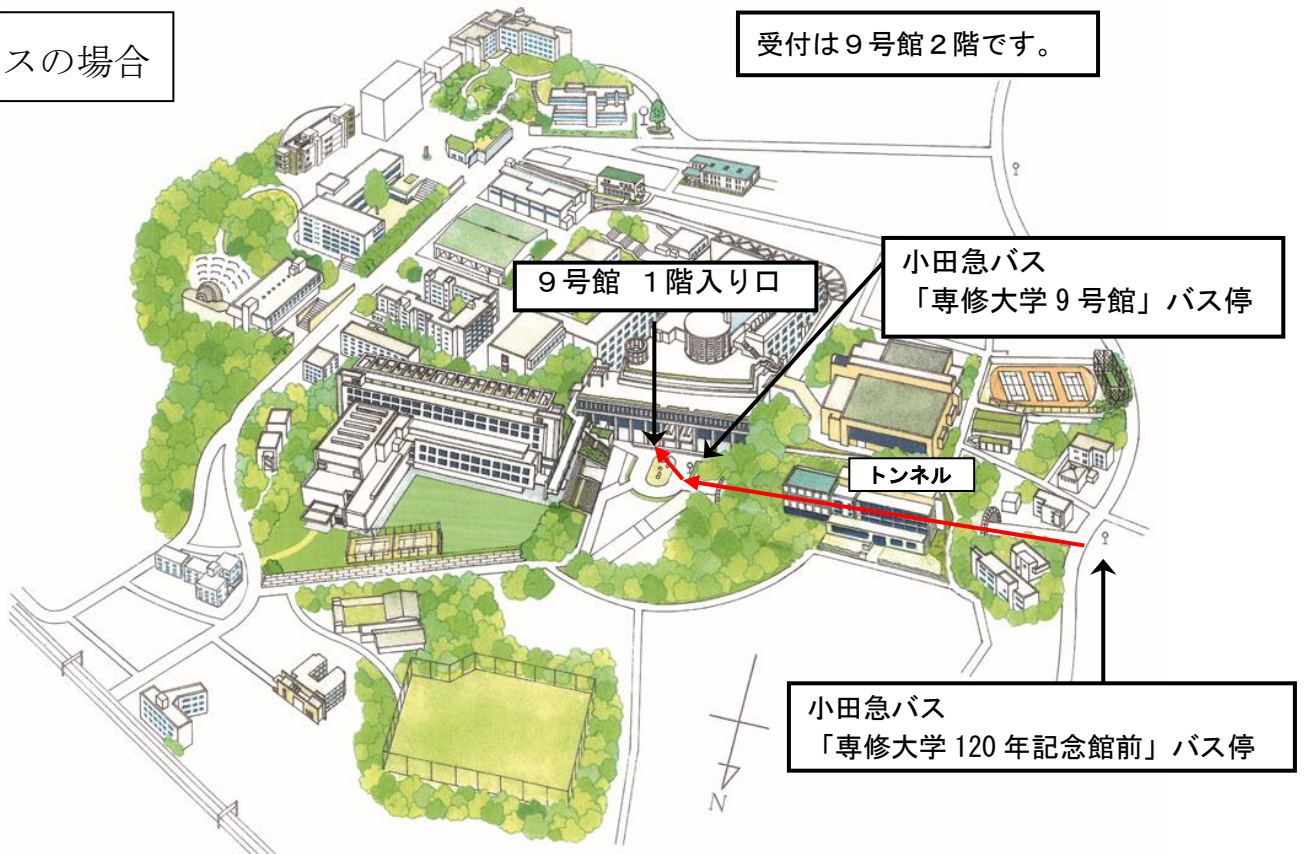
## <会場（生田キャンパス 9号館）へのアクセス>

**徒歩の場合** (向ヶ丘遊園駅からの徒歩経路) 所要時間14~20分



## <会場（生田キャンパス 9号館）へのアクセス>

**バスの場合**



## <2026年度 専修大学「高校教員対象 研修プログラム」概要>

倫 理 . . . . . 4

高校の教育から大学の哲学教育へ、あるいは大学の哲学研究から高校の教育へ

国 語 . . . . . 7

新たな国語への展望と日本語・日本文学文化

日本史・世界史 . . . . . 10

歴史研究の最前線

英 語 . . . . . 14

英語指導のための「引き出し」 —英語史と応用通訳法からの知見—

地 理 . . . . . 17

地域をとらえる地理的な視点

文学部学科紹介



## 倫 理

### 高校の教育から大学の哲学教育へ、あるいは大学の哲学研究から高校の教育へ

この研修プログラムの目的は、まず第一に大学での哲学の講義・教育が実際にどのように行われているのかを見ていただくことにあります。そしてそれを起点にして、高校の教育を大学の哲学教育にどう接続するか、大学の研究成果から高校の倫理や公共（あるいは論文指導）で使える材料をどう引き出すか、大学新入生の背景的な知識を大学側がどう踏まえるべきかなどの問題を考え、ご意見をいただいております。これは、本プログラムの基本的な目的であり、これまでその目的に沿った講義を用意してまいりました。しかしながら、近年は倫理という科目が縮小される傾向にあり、多少カバーする範囲を広げる意味で、また、専修大学で行われている教育の実際に合わせるために、哲学・倫理学・芸術学の3つの分野からの講義を展開させていただくことにしました。

**期日：2026年7月28日（火）**

**定員：40名**（応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。）

10：30～10：40 挨拶・趣旨説明

**担当：金子洋之（文学部教授）**

10：40～12：00 「数学の哲学とはどういうものか」（倫理A）

**講師：金子 洋之（文学部教授）**

私は長年、「数学の哲学」というものを研究してきました。しかし、専門家相手の場合は別にして、なるべく数学の哲学という言葉を使うのを避けてきました。この言葉が惹き起こす拒否反応は結構大きいからです。とはいえ、私がこの研修プログラムの講義を担当するのは今年が最後なので、話したいことを話させてもらおうと腹をくくりました。「数学の哲学」と言われるものは、実際には哲学の歴史の中で、しばしば大きな転換点を作り出してきたということ、そして「数学の哲学」では、どのような問題がどのように現在扱われているかを、細かい技術的な話は抜きで、大まかに捉えてみようというのが今回の趣旨です。

12：00～13：00 昼休み

13：00～14：20 「道徳は実在するか？メタ倫理学から考える」（倫理B）

**講師：佐藤 岳詩（文学部教授）**

道徳は実在するか。急に聞かれても面食らってしまうかもしれない。ここでいう実在するとは、私たちの心の有り様を離れている、という意味だ。たとえば、ホームズはドイルの頭の中で生まれたもので実在しない。他方、私の部屋にある『ホームズの冒険』は、私が念じても消え去りはせず、実在するものである。判定が難しいものもある。たとえば、過去は私たちが勝手に変えられるものではないように見える。だが、私たちの心の中にしかないような気もしないだろうか。道徳もまた、判定が難しいものだ。「困っている人がいたら助けるべきだ」は、たとえ私が面倒だと思っても、正しいことのように思われる。しかし、その相手がかつて私を陥れた人だった場合、どうだろうか。どうすべきかは人それぞれ、すなわち道徳は実在しないと言いたくならないだろうか。しかし、もし道徳が実在しないなら、私たちはなぜそれに従わねばならないのだろうか。本講義では、道徳の実在をめぐる、メタ倫理学といわれるジャンルの議論を紹介する。

14 : 30～15 : 50 「なぜ世界に人生に『芸術と人文学』が必要なのか？」(倫理C)

講師：加藤 有希子(文学部教授)

本講義は、「芸術・人文学は無駄か」という社会的批判を起点に、近現代が〈感性の時代〉であることを歴史的・哲学的に示し、科学的知と人文・芸術的知は相互に補い合うべきであることを論じる。美学・個別学・アート思考の意義を通じて、芸術は人生や社会の意味を問い直し、科学・ビジネスと協働しながら新たな価値を生み出す基盤であることを明らかにする。

※それぞれの講義には質疑応答時間20分を設けております。本年は懇談会を行いません。

専修大学文学部哲学科  
専任教員プロフィール（専攻分野）

（氏名の50音順。\*印は今回の研修プログラム講師。）

- |                    |                                     |
|--------------------|-------------------------------------|
| 出岡 宏（いずおか・ひろし）教授   | 日本倫理思想史／日本人の自然観、芸道の思想、小林秀雄の思想       |
| 加藤 有希子*（かとう・ゆきこ）教授 | 美学・芸術学                              |
| 金子 洋之*（かねこ・ひろし）教授  | 論理学、数学の哲学、言語哲学／直観主義の哲学的基礎、フレーゲ研究    |
| 佐藤 岳詩*（さとう・たけし）教授  | メタ倫理学／応用倫理学                         |
| 島津 京（しまづ・みさと）教授    | 芸術学／美術史                             |
| 高橋 雅人（たかはし・まさひと）教授 | ギリシア哲学                              |
| 貫 成人（ぬき・しげと）教授     | 現象学、現代思想、舞踊美学、歴史理論／身体論、歴史と世界システムの理論 |
| 檜垣 立哉（ひがき・たつや）教授   | フランス現代哲学 日本哲学 生命と自然                 |
| 宮崎 裕助（みやざき・ゆうすけ）教授 | 西洋哲学、ヨーロッパ現代思想、美学と政治、脱構築の思想         |

文学部 哲学科



## 新たな国語への展望と日本語・日本文学文化

今回は、新たな時代の高校国語への展望について 2 名の講師によりレクチャーを開かせていただきます。最初は、実際に言葉を使うことを意識した能力の育成を、どのように国語科の学習に生かすかについて、つぎに私小説作家による昭和文学の概観について、それぞれ講師の方からお話していただきます。

期日：2026年7月28日（火）

定員：30名（応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。）

10:10～10:20 開会挨拶 山口 政幸（文学部日本文学文化学科）

10:20～11:20 日本語研究の成果を生かす国語科の教材研究、学習指導（国語A）

担当：山下 直（国際コミュニケーション学部日本語学科）

平成 30 年版高等学校学習指導要領国語科の「論理国語」、「読むこと」の学習過程「構造と内容の把握」に当たる指導事項では、「要旨を把握すること」や「内容や構成を的確に捉えること」が求められています。これらは、文章の概要を把握するために必要な能力であり、その能力の育成には筆者が何を述べているのかを理解できるように指導する必要があります。その際、文章の内容に着眼した指導に重点が置かれがちです。しかしながら、その文章で筆者がどのような述べ方をしているかに着眼することが、概要を把握するための有効な手段となる場合もあります。それは、日本語研究の成果を国語科の学習に生かすことにもつながります。このような視座から日本語研究の成果を国語科の学習にどのように生かすかを考えてみたいと思います。

11:20～12:20 「あの日この日」の昭和文学（国語B）

担当：山口 政幸（文学部日本文学文化学科）

昭和 45 年(1970) 1 月から「群像」に連載された尾崎一雄の「あの日この日」という文学回想記には、大正末期の同人雑誌の興亡や同人仲間の離合集散など、いわゆる昭和文学の世界に住した文壇人の裏面史が、数多くの逸話とともに紹介されている。が、それより以前、昭和 24 年から書かれた「なめくぢ横丁」、「もぐら横丁」、「ぼうふら横丁」の一連の私小説では、結婚直後の彼の、後進たち（檀一雄、林芙美子、太宰治）との生活を通じた交流の場が描かれており、また興味が尽きない。文学史の一助にもなる、これら一級価値を有する資料を今回読み解いていく。

12:20～13:30 昼食と懇談／図書館見学ツアー（希望者）

専修大学文学部 日本文学文化学科  
専任教員プロフィール（専攻分野と担当授業科目）

（氏名の50音順。\*印は今回の研修プログラム講師）

（下記科目のほか、「専修大学入門ゼミナール」「ゼミナール1・2・3」を担当しています）

- 今井 上（いまい・たかし）教授 平安朝文学・文化研究  
主な担当科目：日本文学通史／日本文学講義／日本文学研究
- 宇野瑞木（うの・みずき）准教授 伝統文化・比較文化研究  
主な担当科目：伝統文化研究／比較文化研究
- 大浦誠士（おおうら・せいじ）教授 上代文学・文化研究  
主な担当科目：日本文学講義／日本文化研究
- 小山内伸（おさない・しん）教授 現代文学・演劇研究  
主な担当科目：現代文化研究／演劇研究／現代文学研究
- 川上隆志（かわかみ・たかし）教授 日本文化研究、出版文化論  
主な担当科目：日本文化研究／出版文化論
- 小林恭二（こばやし・きょうじ）教授 小説・俳句・演劇研究  
主な担当科目：日本文化講義／文藝創作
- 鈴木愛理（すずき・えり）准教授 近現代文学研究、国語教育研究  
主な担当科目：日本文学研究／国語科教育法／教育実習
- 鳶尾和宏（つたお・かずひろ）教授 中世文学・文化研究  
主な担当科目：日本文学概論／日本文学研究／日本文化講義／国語科教育法
- 廣瀬玲子（ひろせ・れいこ）教授 中国文学研究  
主な担当科目：中国文学史／中国文学講義／中国文学研究
- 松尾治（まつお・おさむ）准教授 書学・書道史・書写書道教育  
主な担当科目：書道／書道科教育研究
- 丸井貴史（まるい・たかふみ）准教授 近世文学・文化研究  
主な担当科目：比較文学研究／日本文化講義
- 山口政幸（やまぐち・まさゆき）教授\* 近現代文学・文化研究  
主な担当科目：日本文学講義／日本文学通史／日本文学講読
- 米村みゆき（よねむら・みゆき）教授 近現代文学・アニメーション文化論  
主な担当科目：日本文学概論／日本文学講義／ビジュアル文化論／児童文学研究

専修大学国際コミュニケーション学部 日本語学科  
専任教員プロフィール（専攻分野と担当授業科目）

（氏名の 50 音順。\* 印は今回の研修プログラム講師）

（下記科目のほか、2・3・4 年生のゼミナールを担当しています）

阿部貴人（あべ・たかひと）准教授      社会言語学

主な担当科目：社会言語学／日本語情報処理／日本語の社会的研究

宇佐美洋（うさみ・よう）教授      日本語教育

主な担当科目：現代日本語の研究／日本語（留学生科目）

王 伸子（おう・のぶこ）教授      音声学 日本語教育学

主な担当科目：日本語の音声／日本語教育実習 C／日本語表現論 1／日本語（留学生科目）

斎藤達哉（さいとう・たつや）教授      日本語の文字・表記

主な担当科目：日本語の音韻・表記

須田淳一（すだ・じゅんいち）教授      歴史日本語学 文法リテラシー教育

主な担当科目：日本語の歴史的研究／学習文法研究

高橋雄一（たかはし・ゆういち）教授      現代日本語文法 日本語教育学

主な担当科目：日本語の文法／第二言語習得研究

丸山岳彦（まるやま・たけひこ）教授      コーパス日本語学

主な担当科目：日本語の語彙・意味／日本語情報処理／コーパス日本語学

山下 直（やました・なおし）教授\*      日本語学 国語科教育学

主な担当科目：日本語学入門／国語科教育法

## 日本史・世界史

### 歴史研究の最前線

本プログラムは、今年で20年の節目を迎えました。私たち歴史学科の教員は、学生に歴史学の面白さや意義を伝えるべく日々教育と研究に努めています。その成果の一端をお伝えし、新たな視点や歴史解釈をご紹介したいという願いが具現化したのがこのプログラムでした。

高校の先生方との意見交換も本プログラムの目的のひとつです。高等学校の歴史教育においては「歴史総合」が導入され、先生方も様々な工夫を凝らしながら授業を展開しておられることと拝察いたします。先生方の日頃の授業実践についてお話を伺い、私たちも刺激を受けたいと願っています。豊かな自然に恵まれた生田キャンパスにおいて、皆様と直接交流を深められることを楽しみにお待ちしております。

日本史科目（歴史A／歴史B）と世界史科目（歴史C／歴史D）は、毎年新たな内容にて開講されます。研修へのご参加は、A・B・C・Dから全部、あるいは一部分を選んでいただくことが可能です。ご自由に組み合わせてお申し込みください。

**期日：2026年7月28日（火）・29日（水）**

**定員：日本史・世界史（歴史A～D）各50名程度、両日にわたり複数の講義に応募可**

（応募多数の場合は、抽選とさせていただきます場合があります。）

## ◆ 日本史 7月28日(火)

10:10~10:30 ご挨拶(歴史学科全専任教員から一言ずつ)

### 10:35~12:15 「古墳時代の精神世界—神まつり・葬送儀礼・仏教—」(歴史A)

講師: 小林 孝秀(文学部准教授)

古墳時代の人々は、山や海、巨石など自然に対して神まつりを行なう一方で、死者に対しては異様とも呼べる巨大な墓を築き、葬送儀礼を執り行ないました。また、仏教が受容されると、こうした信仰にも変化がもたらされ、古墳時代に終焉を告げる要因ともなりました。本講義では、発掘された神まつり・葬送儀礼・仏教に関する資料を手がかりに、当時の人々のこころの世界に迫ってみます。

12:15~13:30 昼休み(歴史学科全専任教員との懇談/図書館見学)

### 13:30~15:10 「太閤検地・再考—先規(指出)と新儀(検地)が開いた近世—」(歴史B)

講師: 湯浅 治久(文学部教授)

豊臣秀吉が行った太閤検地は、中世と近世をわかち画期的な施策として高校日本史(探究)に洩れなく載っている。しかしその実態は多様でかつスパンは長い。また本当に戦後の歴史学で論じられたような「画期」であるのか、疑問もある。筆者は中世の指出の研究を通じて太閤検地の相対化を目指している。この報告では、中世的先規としての指出が新義としての検地に与えた影響を補助線として、太閤検地の実態・意義を再考してみたい。

15:10~ アンケート記入

## ◆ 世界史 7月29日(水)

10:10~10:30 ご挨拶(歴史学科全専任教員から一言ずつ)

### 10:35~12:15 「闘う「不可触民」—イギリス支配下のカーストとインド民族運動—」(歴史C)

講師: 志賀 美和子(文学部教授)

インド民族運動史は、イギリス支配への反発を強めたインド在地の人々が「インド人」として団結して独立を勝ち取った過程として描かれがちです。しかしその「インド人」の中には、同じインド人から「不浄」とみなされ差別される人々がいました。この講義では、ナショナリズムが高揚し「インド人」が定義されていく中で、それに異議を唱え、「非愛国的」とのレッテルを貼られながらも抵抗した「不可触民」の姿をみていきます。

12:15~13:30 昼休み(歴史学科全専任教員との懇談/図書館見学)

### 13:30~15:10 「高校で学ぶアメリカ史、大学で学ぶアメリカ史」(歴史D)

講師: 南 修平(文学部教授)

大学の専門科目でアメリカ史の通史を担当しています。その中で感じてきた高校世界史教育の中で学ぶアメリカ史と、大学入学後に学ぶアメリカ史の違い、あるいはそれぞれの特徴を自分の経験からお話ししてみたいと思います。高校から大学へと続いていく学びの過程を高大がどのように架橋していくのか、みなさんとともに考え、高校世界史教育と大学歴史学教育の実りある連携を築いていく一助になればと希望しています。

15:10~ アンケート記入

## 2026年度 歴史学科 専任教員のプロフィール

(50音順。\*印は今年度の講師担当教員。業績は主なものを記載。)

### 鬼嶋淳（きじま・あつし）日本近現代史

【著書】『戦後日本の地域形成と社会運動—生活・医療・政治』（日本経済評論社 2019年）

【共著】『戦後知識人と民衆観』（影書房 2014年）／『新生活運動と日本の戦後—敗戦から1970年代』（日本経済評論社 2012年）

### 後藤康行（ごとう・やすゆき）日本近現代史

【論文】「文芸作品にみる日本海運報国団員の戦時意識—和歌・俳句・川柳の分析—」（『郵政博物館研究紀要』第15号、2024年）／「軍事郵便によるコミュニケーションの形成—個人と社会にまたがる二重構造—」（『メディア史研究』第42号、2017年）／「奉祝行事を通してみる地域社会と天皇—千葉県君津郡中川村を事例に—」（『メディア史研究』第30号、2011年）

### 小林孝秀\*（こばやし・たかひで）日本考古学

【著書】『横穴式石室と東国社会の原像』（雄山閣 2014年）【論文】「つくば市西栗山遺跡出土の多孔式甗—渡来系資料の評価をめぐる視点—」（『生産の考古学』Ⅲ 六一書房 2020年）／「関東北西部の横穴式石室—導入とその系譜をめぐる—」（土生田純之編『横穴式石室の研究』同成社 2020年）

### 志賀美和子\*（しが・みわこ）インド近現代史

【著書】『闘う「不可触民」—周縁から読み直すインド独立運動—』（有志舎 2025年）／『近代インドのエリートと民衆—民族主義・共産主義・非バラモン主義の競合—』（有志舎 2018年）【共著】『新版 わかる・身につく 歴史学の学び方』（大月書店 2025年）

### 高久健二（たかく・けんじ）韓国・朝鮮考古学 [文学部長]

【著書】『楽浪古墳文化研究』（学研文化社 1995年）【論文】「楽浪・帯方郡埴室墓の再検討—埴室墓の分類・編年、および諸問題の考察—」（『国立歴史民俗博物館研究報告』151号 2009年）／「新羅積石木槨墓の埋葬プロセス—皇南大塚を中心に—」（『国立歴史民俗博物館研究報告』211号 2018年）

### 多田麻希子（ただ・まきこ）中国古代史

【著書】『秦漢時代の家族と国家』（専修大学出版局 2020年）【論文】「親と子の距離感—中国古代の孝のあり方—」（樋口映美編著『歴史との対話—今を問う思索の旅—』彩流社 2023年）／「中国古代家族史研究の現状と新たな課題」（『歴史評論』785号 2015年）

### 田中正敬（たなか・まさたか）朝鮮近代史・日朝関係史 [歴史学科長]

【共編著】『地域に学ぶ関東大震災』（日本経済評論社 2012年）／『関東大震災と朝鮮人虐殺』（論創社 2016年）【論文】「植民地期朝鮮の専売制と塩業」（『東洋文化研究』13号 2011年）

### 田中禎昭（たなか・よしあき）日本古代史

【著書】『日本古代の年齢集団と地域社会』（吉川弘文館 2015年）【共編著】『関東条里の研究』（東京堂出版 2015年）【論文】「古代戸籍のなかの母子—大宝二年半布里戸籍にみる戸の編成と家族」（『国立歴史民俗博物館研究報告』235号 2022年）

#### 中林隆之（なかばやし・たかゆき）日本古代史

【著書】『日本古代国家の仏教編成』（塙書房 2007年）【論文】「石作氏の配置とその前提」（『日本歴史』751号 2010年）／「日本古代の「知」の編成と仏典・漢籍—更可請章疏等目録の検討より」（『国立歴史民俗博物館研究報告』194号 2015年）

#### 西坂靖（にしざか・やすし）日本近世史

【著書】『三井越後屋奉公人の研究』（東京大学出版会 2006年）【共編著】『京都冷泉町文書』全7冊（思文閣出版 1991～2000年）【論文】「近世後期江戸における地方出身者の転入と定着—天保十四年・高年御賞対象者を事例に一」（『専修人文論集』108号 2021年）

#### 南修平\*（みなみ・しゅうへい）アメリカ史

【著書】『アメリカを創る男たち—ニューヨーク建設労働者の生活世界と「愛国主義」』（名古屋大学出版会 2015年）【共著】『「ヘイト」に抗するアメリカ史—マジョリティを問い直す』（彩流社 2022年）【論文】「海から陸の男へ—第2次大戦後におけるアメリカ人海員の「家族人」志向」（『歴史学研究』106号 2021年）

#### 日暮美奈子（ひぐらし・みなこ）ドイツ近現代史

【共編著】『<近代規範>の社会史—都市・身体・国家—』（彩流社 2013年）【論文】「帝政ドイツと国際的婦女売買撲滅運動—西部国境を越える女性の移動から考える」（『歴史学研究』925号 2014年）／「アウグステ・ヴィクトリア—皇后の「使命」と母性」（『専修史学』71号 2021年）／「帝政期ドイツにおけるある婦女売買事件の分析」（『専修史学』74号 2023年）

#### 廣川和花（ひろかわ・わか）日本近代史

【著書】『近代日本のハンセン病問題と地域社会』（大阪大学出版会 2011年）【論文】「「隔離」と「療養」を再考する： COVID-19 と近代日本の感染症対策」（『専修人文論集』109号 2021年）【共訳書】アン・ジャネット『種痘伝来—日本の〈開国〉と知の国際ネットワーク』（岩波書店 2013年）

#### 松本礼子（まつもと・れいこ）近世フランス社会史・都市史

【共著】『地域と歴史学—その担い手と実践』（晃洋書房 2017年）／『〈フランス革命〉を生きる』（刀水書房 2019年）【論文】「18世紀後半パリのポリスの特質—『悪しき言説』をめぐる取り組みを手掛かりに」（『西洋史学』253号 2014年）

#### 湯浅治久\*（ゆあさ・はるひさ）日本中世史

【著書】『戦国仏教』〈中公新書〉（中央公論新社 2009年）／『蒙古合戦と鎌倉幕府の滅亡』（吉川弘文館 2012年）『中世の富と権力—寄進する人びと』（吉川弘文館 2020年）

歴史学科



## 英語指導のための「引き出し」 —英語史と応用通訳法からの知見—

本年度は、英語史（英語学）および応用言語学（応用通訳法）の観点から、教室での英語指導、さらには自主研修に役立ついろいろな「引き出し」を提供したいと思います。“一方通行型”の知識伝授ではなく、受講される先生方に実際に体験していただきながら、“知的好奇心”に満ちた一日にしたいと考えます。

期日：2026年7月29日（水）

定員：30名

### プログラム

10：15 - 10：20 開会の挨拶

10：30 - 12：00 「英語コーパスを活用した語法・文法の多面的な指導」（英語A）

講師：菊地翔太（文学部准教授）

実際に使用された言語のデータを集めた大規模データベースであるコーパス（corpus）は、単語や文法の頻度や使われ方について貴重な洞察を与えてくれるとても便利なツールです。本講座では、コーパスの使用方法を基礎から確認し、コーパスを英語指導の「引き出し」に加えることを目指していきます。具体的には、生徒達が疑問に思うような語法・文法上の諸問題を対象に、複数のコーパスを駆使して多角的に検索を行っていきます。そうすることで、コーパスの使い方に習熟するだけでなく、現代英語の多面的な理解に必要な通時的・共時的視点を身につけていきます。

12：00 - 13：00 Lunch Break／図書館ツアー（希望者のみ）

13：05 - 14：35 「応用日英通訳法：生徒を伸ばす、自分も伸びる」（英語B）

講師：田邊祐司（文学部教授）

今回は、講師が40年以上、授業の中核としてきた応用日英通訳法の一端をシェアしたいと考えています。講師は1980年代の学部時代に日英通訳者育成の試験に“まぐれ合格”し、日系人の先生から厳しいトレーニングを受けました。以来、OJTとして各種の学会、国際交流事業、民間企業の国際会議、メディアなどでの通訳実地を積み、日英通訳技術を磨きました。今回はその中で、主に英語語彙・表現、Listening、Speaking指導に役立つ様々な手法を学んでいただくことで、今後の教室での指導／学習の新たなかたちを探ってみたいと思います。

14：40 - 14：50 アンケートのお願い

14：50 - 15：00 閉会の挨拶

# 専修大学文学部英語英米文学科

## 専任教員プロフィール

(50音順。\*印は今年度の講師担当教員。業績は主なものを記載。)

石塚 久郎 (いしづか・ひさお) イギリス研究、医学史、文学と医学

【著書】 *Fiber, Medicine, and Culture in the British Enlightenment* (Palgrave Macmillan 2016年) 【論文】  
Enlightening the fibre-woven body: William Blake and eighteenth-century fibre medicine (*Literature and Medicine* 25号 2006年) 【監訳】『病短編小説集』(平凡社ライブラリー 2016年)

大久保 譲 (おおくぼ・ゆずる) イギリス文学 (特に近代イギリス小説)

【論文】「海辺のシュルレアリスム——ポール・ナッシュの1930年代」(山口恵里子編『イギリス美術叢書VI エロスとタナトス』ありな書房、2021年) 【翻訳】ステファン・テメルソン『缶詰サーデインの謎』(国書刊行会、2024年)

岡部 玲子 (おかべ・れいこ) 英語学、心理言語学

【論文】「語彙爆発—日本語の自然発話コーパスに基づく考察」(『専修人文論集』109号 2021年) / Lexical integrity and acquisition of N-N compounds in Japanese: A preliminary study (『言語研究の楽しさと楽しみ』2021年) / V-V compounds in child Japanese: An experimental study (*Journal of Japanese Linguistics* 34号 2018年)

小畑 美貴 (おばた・みき) 英語学、統語論

【論文】How Labels Affect Morpheme Realization: A Study of V-V Sequences. (*Studies in Generative Grammar* 33(2)号 2023年) / 「日本語分裂文における素性と値のタイミングと焦点」(『上智大学言語学会会報』第35号 2021年) / Is Linguistic Variation Entirely Linguistic? (*Linguistic Analysis* 41号 2017年) / 「文解析と記憶システム: 文法的依存関係構築における干渉効果の検討」(『言語の設計・発達・進化』2014年)

片桐 一彦 (かたぎり・かずひこ) 英語教育学、英語教員養成、言語能力の推定

【論文】The impact of early English exposure/education on vocabulary size through Bayesian hierarchical modeling: An additional analysis of Katagiri (2019) (*The Annual Bulletin of the Humanities, Senshu University*, 54号, 2024年) / 「コアカリ導入前の教職履修学生の学修と発達状況: 言語教師ポートフォリオ (J-POSTL) の省察を通して」(JACET 関東支部紀要 8号 2021年) / Speaking proficiencies among Japanese high school EFL students over a three-year period (*The Japan Language Testing Association Journal* 16号, 2014年)

上村 妙子 (かみむら・たえこ) 応用言語学、英語表現論

【著書】『異文化コミュニケーション—自文化と異文化の理解をめざして—』(専修大学出版局 2023年) / *EFL Grammar for Japanese Students and Teachers* (Senshu University Press 2020年) / *Teaching EFL Composition in Japan* (Senshu University Press 2012年) / 身近な異文化コミュニケーション—ここにユニバーサルデザインを—』(パレード 2022年) 【論文】Producing summaries of expository writing: Examining contextual effects (*KATE Journal* 34号 2020年)

\*菊地 翔太 (きくち・しょうた) 英語史、歴史社会言語学

【論文】A comparative study of *wh*-relativizers in Shakespeare and Fletcher (*Studies in Modern English* 33 2017年) / Relativizers in Shakespeare's drama: A sociolinguistic study (*Studies in English Literature. Regional Branches Combined Issue* 7 2015年) / 「世界英語における2人称代名詞の多様性と変化—eWAVEを活用した英語史的な思考法への誘い—」(『専修人文論集』111号 2022年)

Hamish Gillies (ギリズ・ヘイミッシュ) 応用言語学、第二言語(外国語)としての英語教授法

【論文】 L2 narrative identity as drama: Exploring links between L2 learning experience and the ideal L2 self (*TESL-EJ* 27(1)号 2023年) / 【共著】 Versifying adversity: Using dramaturgically framed poetic inquiry to explore complexity in the second language learning experience (*System* 110号 2022年)

佐々木 優 (ささき・ゆう) アメリカ文化・文学

【著書】 *Media Representations of African American Athletes in Cold War Japan* (Peter Lang 2020年)

【論文】 Tigerbellies of Tennessee State University: Race, Gender, and the 1964 Tokyo Olympic Games (*The Griot: The Journal of African American Studies* 37.1 2018年)

末廣 幹 (すえひろ・みき) イギリス演劇(特にシェイクスピアと17世紀演劇)

【共編著】 『コメディ・オヴ・マナーズの系譜——王政復古期から現代イギリス文学まで』 (音羽書房鶴見書店、2022年) 【論文】 「Stepping Westward ベン・ジョンソン喜劇のトポグラフィ」 (*『人文学報』* 342号 2003年) / 「イスラム恐怖を超えて『オセロー』とトルコ化の不安のレトリック」 (日本シェイクスピア協会編『シェイクスピア～世紀を超えて～』 研究社 2002年) / 「“Theatric genius lay dormant after Shakespeare…” ——ホレス・ウォルポールの『謎を抱えた母』に見られるシェイクスピア崇拜のアンビヴァレンス」 (*『専修人文論集』* 第109巻 2021年)

\*田邊 祐司 (たなべ・ゆうじ) 英語教育学、英語音声指導・習得、日英通訳法、日本英語教育史

【著書】 『日本人は英語の発音をどう学び、教えてきたか：英語音声教育の小通史』 電子版 (単著、研究社 2025年) / 「書評とリプライコメント 上野舞斗氏の書評に就いて」 『日本英語教育史研究』 pp.113-120 (単著、日本英語教育史学会) / 『ジーニアス総合英語』 第3版 (共著、大修館書店 2025年) / *Asahi Weekly* 隔週連載コラム「Time for a cuppa! 英語と英国文化を語ろう」 (共著、朝日新聞社 2025年4月6日号～現在継続中)

道家 英穂 (どうけ・ひでお) イギリスの詩、西欧文学の思想史的研究

【著書】 『詩と世界のヴィジョン～イギリス・ロマン主義から現代へ～』 (平凡社 2023年) / 『死者との邂逅～西欧文学は〈死〉をどうとらえたか～』 (作品社 2015年) 【翻訳】 ロバート・サウジー著『タラバ、悪を滅ぼす者』 (作品社 2017年)

中垣 恒太郎 (なかがき・こうたろう) アメリカ文学、比較メディア文化研究

【著書】 『マーク・トウェインと近代国家アメリカ』 (音羽書房鶴見書店 2012年) / 『ハーレム・ルネサンス——〈ニュー・ニグロ〉の文化社会批評』 (共編著、明石書店 2021年) 【論文】 「チャップリンと1910年代アメリカ～「放浪者」像の生成～」 (*『アメリカ文学』* 76号 2015年)

三浦 弘 (みうら・ひろし) 英語音声学・音韻論

【共著】 『朝倉日英対照言語学 2 音声学』 (朝倉書店 2012年) / 『現代音声学・音韻論の視点』 (金星堂 2012年) 【論文】 「STRUT 母音の変容と音素記号」 (*『専修人文論集』* 112号 2023年, <https://doi.org/10.34360/00013362>) 【翻訳】 ポール・カーリー、インガ・メイス、ビバリー・コリンズ著『イギリス英語音声学』 (大修館書店 2021年) 【その他】 『英語音声学ブログ』 (プロンテスト <https://prontest.co.jp/contributions/professor-miura/>)

渡邊 真理子 (わたなべ・まりこ) 現代アメリカ文学

【共著】 『揺れ動く〈保守〉～現代アメリカ文学と社会～』 (春風社 2018年) 【論文】 「幻影のアメリカ～Being Thereにおける擬似アイデンティティ～」 (*『アメリカ文学研究』* 45号 2009年) 【共訳】 『スクリブナー思想史大事典』 (項目翻訳) (丸善出版 2016年)

Peter Longcope (ロンコープ・ピーター) 第二言語習得、第二言語教育学

【論文】 Missing the mark? Looking at recent language acquisition policy decisions in Japan through the lens of SLA research (*『専修人文論集』* 97号 2015年) / Language attitudes and language contact in an FL setting (*『専修大学外国語教育論集』* 43号 2015年) / A multivariate analysis of interlanguage differences between learner levels (*『英語学論説資料』* 43号 2009年)

文学部 英語英米文学科



# 地 理

## 地域をとらえる地理的な視点

環境地理学科の2名の専任教員が、歴史地理学と地形学の講義を行います。講義では、地図資料にみる過去の地理と、地図・写真・図から読み解く「高まる・低まる」地形について、事例をもとにわかりやすく紹介し、調べ方（研究方法）や読解のポイントも解説します。

**期日 2026年7月29日（水）**

**定員 20名**

10：10～10：20 挨拶：三河 雅弘（文学部教授 環境地理学科長）

10：20～11：30 「地図資料と歴史地理学」

講師：三河 雅弘（文学部教授）

地形図や古地図といった地図資料には、それらが作られた時代の景観が記載されています。そうした景観の多くは、実はそれ以前の時代の一部を受け継いでいます。歴史地理学は、地図資料に記載された痕跡を手がかりに、過去の景観を復原してきました。また、地図資料の検討を通じて、過去における地域の理解も試みてきました。本講義では、地図資料を紹介するとともに、それらを用いて過去の地理を読み解く歴史地理学について解説します。

11：30～12：30 昼休み

12：30～13：00 図書館ツアー

13：10～14：20 「日本列島の高まる地形・低まる地形」

講師：苅谷 愛彦（文学部教授）

地形は地球表面の凹凸です。この講義では、山岳地形・火山地形・氷河地形・人工地形を題材に、地図・写真・イラストを手がかりにして「高まる・低まる」はたらきがつくる凹凸の地形を読み解きます。読図や写真判読の着眼点、地形発達の要点を整理し、土地利用や防災にもつながる視点から風景の成り立ちを理解します。専門用語は最小限にして、平易に解説しますので地理がご専門でない先生の参加も歓迎いたします。

## 専修大学文学部環境地理学科

### 専任教員プロフィール（専攻分野）

（氏名の50音順。\*印は今回の研修プログラム講師。）

赤坂郁美（あかさか・いくみ）教授 気候環境学（身近な気候の成り立ちと変化、気候変動）

江崎雄治（えさき・ゆうじ）教授 人口地理学（人口移動、少子高齢化、地域人口の将来像）

苅谷愛彦\*（かりや・よしひこ）教授 地形学・地質学（地形発達、山地の環境変動、斜面変動）

小泉 諒（こいずみ・りょう）教授 都市地理学（大都市圏の空間構造、居住地域構造）

鈴木比奈子（すずき・ひなこ）助教 災害地理学（防災、ジオパーク、災害アーカイブ）

高岡貞夫（たかおか・さだお）教授 生態地理学（森の自然の成り立ち、森と人のつながり）

縫村崇行（ぬいむら・たかゆき）准教授 地理情報学（環境動態解析、測地、氷河）

三河雅弘\*（みかわ・まさひろ）教授 歴史地理学（過去の景観や地域、古地図）

山本 充（やまもと・みつる）教授 地誌学、地域研究（ヨーロッパ・アジア）

吉田国光（よしだ・くにみつ）教授 農村地理学（生業・文化、資源利用、村落社会）

文部科学省  
<http://www.mext.go.jp>



神奈川県教育委員会  
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6556/>



専修大学ホームページ  
<http://www.senshu-u.ac.jp>



専修大学文学部ホームページ  
<https://www.senshu-u.ac.jp/education/faculty/letters/>



社会知性の開発をめざす

**専修大学** 文学部

高校教員対象研修プログラム実行委員会

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

TEL: 044-911-1254